

# ORPANOΣ

東北学院大学 広報誌

ウーラノス

特集 NEW WAVE T.G.U.

『大学設置50周年記念』

座談会

『若者たちへ—My Campus Life』.....

大学設置50周年記念事業紹介 .....

変わる東北学院大学 .....

ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)は、「天」を意味するギリシャ語です。新約聖書のイエス・キリストの言葉「あなたがたは地上に富を積んではならない...富は、天に積みなさい」(マタイ6:19-20)にも用いられています。



## CONTENTS

大学院より.....  
学部より.....  
国際交流センターより.....  
図書館・研究所より.....  
就職部・入試センターより...



21世紀通信

Vol.2  
1999 OCTOBER

大学広報誌『ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)』は、東北学院大学設置50周年を記念し、年3回発行されます。東北学院大学は、土樋・多賀城・泉の3キャンパスに大学院5研究科10専攻および7学部13学科を擁する総合私立大学です。時代と社会の要請に十分に答え得る高等教育機関として多彩な教育研究活動に励んでおります。その内容の一端を本誌を通し皆さまにお伝えしたいと願っております。



## 若者たちへ -My Campus Life



平成11(1999)年7月26日

土樋キャンパス本館にて

座談者：本学長 倉松 功  
 文学部長 土戸 清  
 経済学部長 山本 新一  
 法学部長 阿部 純二  
 工学部長 中針 憲賢  
 教養学部長 大山 正博

司会者：宗教部長 佐々木哲夫  
 (大学広報誌発行小委員会 編集長)



### 私の大学時代の思い出 -Memories

司会 「若者たちへ-My Campus Life」においても残っている私の基礎的なという主題で学部長の先生方にお話しをお伺いしたいと思います。始めに、ご自身の大学時代についてお話ししていただきたいと思います。大学長の倉松功先生からからお願いいたします。

倉松 私の学生時代は、戦中戦後の旧制大学の時代です。一番記憶に残っているのは、旧制高等時代の世界史、日本史、哲学などの教



倉松 功 大学長

養教育課程の講義です。日本と世界を全体的にどう見るかということを教わりました。日本的な考え方、日本

的な生活習慣を世界や日本の歴史の中で、あるいは経済や社会の講義の中で考えました。それは今日になっていきます。

司会 文学部長の土戸清先生はいかがですか。

土戸 そうですね、終戦直後は中学生でしたから、大学は完全に戦後世代です。大学教育も、私の印象では、欧米の文化に憧れた時代の教育だったと思います。にもかかわらず、教えている先生方は戦前の教育を受けた方々ですから、ギャップがありました。例えば、英語やドイツ語の授業を多く受けたいと思っても、外国人教師(ネイティブ)の人はほとんどいませんでした。しかし、学ぶことは圧倒的に欧米から多く受けた時代だ

ったとの印象を持っています。

司会 戦後、新しい教育制度に変わった頃のお話でした。経済学部長の山本新一先生はいかがですか。  
 山本 私が大学に入ったのは、昭和28年の4月です。新制大学として認可されたばかりの大学の第1回生でした。大学の将来は学生たちでつくっていかねばならないとの意識があり、また、先生方も「Be Pioneers(先駆者たれ)」とおっしゃっていました。

私が大学に入って一番強く感じたのは、文化人類学、心理学、社会学など、高校で習ったことのない科目が次々に出てくることです。特に、文化人類学は大変貴重な学びでした。民族や人類に差別がないことを教えられました。教科書としてルース・ベネディクトの『文化の諸様式』を読み、文化という

のは、それぞれの民族あるいは種族の持っている生活様式そのものであり、世界の人々は皆平等だと教えられました。

倉松 日本人の先生からですか。

山本 外国人の先生からです。物を見る目が非常に広くなりました。学部では、リベラル・アーツを主体とした教育を受け、専門的なことは大学院に入ってからというのが大学の方針でした。

司会 大学の雰囲気や学生の気質というのは、専門によっても違うと思います。法律の勉強をされた法学部長の阿部純二先生はいかがでしょう。

阿部 私は昭和26年に大学に入学しました。昭和24年に新制大学が始まったのですが、当然、旧制大学もまだ残っているわけで、新制と旧制が混在していました。とにかく学生が非常に多かった感じがします。旧制の学生は、戦地から帰ってきた方が多かったものですから、大分年をとっており、私は18歳で入学したので、軽く見られていたと感じておりました。しかし、やはり、新制大学をつくっていかねばいけないという気持ちで一生懸命勉強する雰囲気はありました。しかし、出席率が良かったかという、非常に悪いものでした。アルバイトをして講義に出ないが、試験になると出てくるという学生がかなりいたように思います。

司会 電気の勉強をされてきた工学部長の中針憲賢先生からお話をお伺いしたいと思います。

中針 私は、阿部先生の1年後の昭和27年に工学部に入学しました。入学式のときに、大学は真理の探究をするところだという話を聞きました。真理を山登りに例えて、登ったと思ったらまだまだその先にあるのが真理であり、それを追いかけていくのだということです。



中針 憲賢 工学部長

ら同じ真理という言葉を使っている、国立大学では随分アプローチの仕方が違うのだなと思いました。

司会 心理学を専攻された教養学部長の大山正博先生はいかがでしょう。

大山 私の場合は、小学校の頃、正岡子規と同じように骨の結核になりまして、ほぼ9年間、療養の時期を送りました。中学校の3年生に編入したときはもうすでに21歳でした。中学校の3年生のときに、小学校の勉強と中学校の勉強、そして受験勉強を全部一緒にしなければなりません。高等学校に入っても、皆に追いつくのが精一杯でした。

大学では、何を勉強していいかわからず、進路も大学に入ってから迷うという状態でした。私は、大学ではとりあえず人間に関する勉強を少ししてみよう、その後のことはまた考えようと思い、心理学専攻を選びました。学生は、北海道から九州まで、様々なところから来ていました。それから、年齢層も、戦後の名残がまだ続いておりまして、いろいろな人たちがおりました。

司会 当時の社会の状況もあわせて、ご紹介していただけますか。



阿部 純二 法学部長

阿部 私は山形県の庄内地方の鶴岡の出身で、昭和26年に仙台に出てきました。仙台は戦災を受け、復興途上でしたが大都会という感じがしました。当時、下宿暮らしでした。下宿代

が幾らぐらいだったのかを日記帳で調べてみましたら、3,000円から3,500円ぐらいでした。また、当時、イチゴ園に行くという楽しみもありました。

山本 ありましたね。

阿部 八木山の山腹にイチゴ園があって、遠足に行きました。そこでイチゴミルクを食べるのです。

中針 結構、その時代なりに、お金をかけない楽しい生活がありましたね。

阿部 あのころは社会現象で、学生はソーシャルダンスを習っていました。私でさえ習ったのですから、留学する際に使えると思いましたが全然だめでした。

山本 私は大学院のとき、先生が「きょうは暑い、一杯飲みに行こう」と連れていってくれ、



そこで、ダンスを習いました。後に、イギリスに行った際、役に立ちました。また、クラシック音楽を聞くというの大きな楽しみでした。

阿部 名曲喫茶というのがありましたね。

山本 30円か40円のコーヒーだけで何時間もねばりました。そのときに、例えば、論文の構想を練るんですよ。教養教育科目に中に、音楽、絵画があったのです。

例えば、テープレコーダーでベートーベンの第五、あるいはチャイコフスキーのクルミ割人形などを徹底的に聞かされました。自分の下宿に帰っても、頭の中はガンガンと音楽が鳴っている感じです。しかも、試験で、第何楽章の今のテーマを演じている楽器は何ですかという問題が出るものですから、どうしても何度も聞きに行かなければならない。それでクラシックに馴染んだというわけです。



## これからの世紀を 生きる若者たちへ

—Message

司会 「これからの21世紀を生きる若者たちへのメッセージ」をいただきたいと思います。本学で学ぼうとしている高校生、受験生たちにも、ご自分の経験から一言ずつお願いいたします。

土戸 この間、日本私立大学連盟の部課長議会がありまして、キリスト教大学が国際交流について余り活発ではないという意見が一般の大学の方から出されました。しかし、本学をはじめ多くのキリスト教主義大学は、創立のときから国際交流を前提にしていますから、改めて国際交流をと言わなくても、すでに100年以上前から国際交流の歴史をもっていると説明しました。

私は、本学をめざす学生はもちろんのこと、在學生、卒業生は幸せだと思います。なぜなら、異文化との接触を、改まった形ではなく、ごく自然に経験できる大学に入学したからです。国際的に通用する普遍的価値観を有する人材の育成が、本学の特色の一つです。

留学あるいは卒業してからの職場で、アジアをはじめ世界各国で活躍するのは、今の在學生であり、卒業された方々です。そういう人たちが活躍する21世紀は、異文化の背景と

なっている宗教理解を自然に身につけている必要があります。大学時代に宗教教育に触れたことは、諸外国に行った時に非常に役立つと考えています。

倉松 異文化理解の基礎になっているのが宗教だと思います。世界宗教の一つであるキリスト教が本学の建学の精神です。それが本学教養教育の重要な科目であり、単位数もかなりの比率を占めています。今後の日本人にとって宗教に接することは大変重要だと考えています。毎日行われる大学礼拝を通して、本学の学生たちは貴重な体験をしているのです。文化の基礎にある宗教に触れることは、異文化理解の基礎ですので、大切にしたいと思います。キリスト教あるいは聖書の価値・言葉に触れて自分の人格を形成する、また、自己を確立してほしいということです。



土戸 清 文学部長

土戸 東北学院大学には、各専門領域で優れた先生方が大勢います。国際的に活躍している先生はもちろんのこと、国内でも、教育者、また研究者として活躍している先生がたくさんいます。勉学意欲のある人たちは、そのような先生方に直接指導を受けることができるのですから、恵まれている教育研究環境といえます。

阿部 本学の良さは、そのとおりだと思います。学生は、自然に国際性を身につけ、異文化理解に対して恵まれた素質を備えることができます。

その上で、今の学生諸君に要望したいと思うのですが、確かに、明るく伸び伸びと勉強をし、しつてもよく、礼儀正しいことは非常に良いことだと思います。しかし、私の見たところ、勉学について少々あっさりしているといいませんか、淡泊である感じがしてなりません。

倉松 私も同じ感想を持っています。阿部 勉学に対して、集中や熱心がほしいのです。本学法学部は、関東以北ではほとんど唯一に近い私立大学法学部で、その意味で、法学教育の水準というものをこの東北地方で保っていかなければならない責任を持っています。教員もそのことを自覚しなければなりません。学生諸君にも、その点について今後大いに期待したいと思っています。

大山 学生諸君にお願いしたいのは、泉キャンパスの恵まれた自然環境、スタッフ、施設、特に教養学部の場合、4年間泉キャンパスで勉強するので、それを生かしてほしいと思います。そのためには、大学生である以上、学習することを学んでほし



大山 正博 教養学部長

### ~From the President.

## 世界学長会議と国際交流



倉松功大学長は、去る7月11日から14日まで、ベルギー・ブリュッセルで、「現状の大学文化の諸試金石」と題して開催された第12回世界学長会議に出席しました。また、ドイツ・ヴィースバーデン大学にも調印式のために訪問しました。

世界学長会議への出席は、神戸、サンフランシスコに次いで3回目です。今回はヨーロッパ、特にそれもEU委員会の所在地ということもあり、EUの内実形成への大学文化の役割という色彩が見られました。また、一つの社会的文化的

機関としての大学とそこで学べる学問との責任と自由ということや、情報工学による大学生活の変化から、平和への取り組みまで、きわめて多様な形で取り上げられました。

ヴィースバーデン大学の訪問によって、中世から19世紀にいたる州文部省下の旧大学と異なる、国の文部章下にある大学の一端を直接体験できました。両大学の関係者の努力によってこれまで順調に進められてきた同大学との交流の発展を期待しています。

いのです。

たとえ大学時代に芽が出なくても、卒業してから本学で学んだことが支えになります。これからの社会は、生涯学習の時代です。自分で学習しなければならない社会になります。そのためにも、学習することを学ぶ基礎を大学時代につくってほしいと思います。

倉松 卒業生のどなたに聞いても、もう少し勉強すれば良かったとおっしゃいます。この前、仙台銀行頭取の日下さんにお会いしたのですが、優等生になったにもかかわらず、もう少し勉強すれば良かったということをおっしゃっていました。

□ 山本 大山先生のおっしゃるとおりだと思います。勉強の仕方というのを覚えて、自分で興味を持って学ぶ。それで伸びるのですね。だから、まさに、学問の方法を学ぶということだと学ぶということだと思います。その意味で、経済学部では基礎ゼミを2年生から始めていますが、来年からは1年生から実施することになりました。

中針 工学部の場合も、意欲のある学生がどれだけいるか、目的意識をどれだけ持っているかが、その伸びにつながっていますね。

現在、大気汚染など様々な問題を抱えている社会の中で、それを解決するのは工学を学んだ人たちなんだという意識を持ち、社会に貢献でき

る大切な分野を発見し、生きがいのある仕事を見いだしてほしいと思っています。

グローバルな社会を形成していく貴重な基本的な考え方を、本学は持っているのですから、一緒に学んでほしいと思います。本学では、国立大学に憧れて行くよりは、むしろ自由な発想を持ち、自由な環境の中で学べると思っています。


倉松 今、中針先生がおっしゃったように、他の先生方にも是非おっしゃっていただきたいですね。個人が尊重され、個人の自発性を伸ばさなければならない時代に、本学で自由に学ぶことの意味は大きいと思います。「若者よ、東北学院大学に来たれ」です。

土戸 東北学院大学は、自由な大学であり、個人が尊重されている雰囲気と実質のある大学ですから、私立大学としてこれからますます伸びていく大学だと考えています。国立大学にない良さを持っているのですから。

阿部 法学部についても、そういうことは言えると思います。意欲のある学生、しかも多様なニーズや勉強の方向性を持っている学生に学んでいただきたいと思います。本学部ではコース制を設け、それに対応できるような教育を来年度から実施しようとしております。是非多くの学生諸君、特に法学部を志望していただ

きたいと考えております。

大山 教養学部は、その時代性と密接に関係がある学部です。推薦入学試験など多様な入口を備えていますし、自分たちに最適な分野を見つけることが可能な学部だと思います。倉松 今年から導入しますA0入試は、今、大山先生がおっしゃった、偏差値でははかることのできないものを持っている受験生に入学していただきたいという制度です。大事なのは、本学で勉強したい、本学に入学したいという意識です。学習意欲のある学生は是非A0入試を活用してもらいたいですね。最近のアメリカの経営者能力開発で、能力よりも意欲ということが叫ばれているようで、興味深く思っています。すぐれた教授陣の大学院を有し、専門実用性の高い、就職と直接結びついた経済・法・工学部を持ちながら、将来あらゆる分野に適合し、活躍できる人間形成をめざしている総合大学でそれぞれがめざすものに進んでほしいと思っております。

司会 先生方の個人的な思い出から  
 21世紀の学生への励ましの言葉まで幅広くお話をいただきましてありがとうございます。

佐々木 哲夫 宗教部長

## COLUMN WELL

### 日中共同発掘をめざして

佐川正敏文学部助教授が、「日本・中国先史時代遺跡共同発掘調査実行委員会」から研究者チームの一員として、事前踏査のため中国東北部内モンゴル自治区赤峰市の『興隆溝（こうりゅうこう）遺跡』に派遣されました。海外の研究機関が中国東北部の新石器時代の遺跡で行う初の調査をめざしています。



第50回記念大会  
青山学院大学対東北学院大学  
総合定期戦

50回目を迎えた記念大会となった『青山学院大学対東北学院大学総合定期戦』が、5月29日から31日までの3日間、本学が会場校となり青山学院大学選手団を迎え、各種目で熱戦が繰り広げられました。

青山学院大学の建学の精神は、本学と同じようにキリスト教に基づくものとしており、総合定期戦の他にも、宗教部の合同の研修会を持つなど、これまでに友好的関係を維持してまいりました。

また、今年度は大学設置50周年でもあることから、総合定期戦を記念事業の一つとして位置づけ、伝統の一戦にさらなる重みがかわることになりました。

総合定期戦初日は、仙台駅ペDESTリアンデッキで、両校の応援団、

チアリーディングチームによる対面式から始まりました。杜の都を熱くする総合定期戦の開幕を告げるセレモニーに、多数の仙台市民が集い、両校のエール交換などに拍手を送っておりました。



また、記念大会の特別企画として、仙台駅コンコースにおいて、これまでの歴戦の記録や競技風景写真などを集めてのパネル展を開催し、一般の多くの方々に見学していただきました。セピア色の写真からは、時代の移り変わりが感じられ、興味深い展示会となりました。

さらに、いくつかの種目では、

OB戦が行われ、現役時代を彷彿とさせるプレーや笑いを誘う珍プレーが続出し、応援している観客はもとより、参加したOB選手にとっても、学生時代に戻ったの懐かしい時間を過ごすことができました。

競技は、27種目に分かれて行われ、本学選手団の意気込みが圧倒し、各クラブで目ざましい活躍を見せました。総合成績は、本学の14勝11敗2引き分けで、3年ぶりに通算18回目の優勝を果たし、大学設置50周年に華を添えることができました。



父母のための  
パネルディスカッション

平成11年度後援会総会に合わせ7月3日泉キャンパスにおいて『父母のためのパネルディスカッション』を開催しました。

約400名の父母が出席する中、「地域から発信する文化—東北学院大学とのかかわりで—」をテーマとして、本学に関わりが深く各界で活躍している方々に発題をお願いしました。

パネリストは、洋画家で東北福

祉大学教授の原秀一氏(平元文史卒) 演出家で本学教授の下館和巳氏、河北新報社編集局同学芸部長の永野為和氏(昭45法卒) 弁護士の佐久間敬子氏(昭45法卒) さらに、在学生の父母の立場で東北大学教授の原英一氏の5名の方々です。これからの時代に地方が果たす役割と可能性、そして、地方と中央という概念の変化について、それぞれの立場での実践的な活動からテーマに沿った意見を述べていただきました。

今回のパネルディスカッションは、地方から中央へという共通する発題を通して、熱弁に耳を傾けてくださったご父母だけではなく、こ

れからの東北学院大学のあり方にも関連し、教職員にとっても、新しい時代に向けて、それぞれの立場で本学の使命を確認する貴重な機会となりました。





## UI (ユニバーシティ・アイデンティティ) の明確化 — ワークショップ活動の展開 —

大学設置50周年を機会に、本学の建学の精神や教育理念について原点に立ち返って、UIを明確にすることを計画しております。

本学を取り巻く環境が激動の時代を迎え熾烈な競争期にあります。21世紀を間近に控えて、さらなる飛躍をめざして取り組むものです。創設当時の東北学院大学の建学の精神を重んじ、本学が地域にあって果たすべき真の役割は何かを検証したいと考えております。

具体的には、学内外の社会人の方々にお集まりいただきワークショップを構成し、様々な立場から本学のあり方について検討を重ねていく予定です。

すでに社会人対象のワークショップは2回実施され、1回目は「知る—東北学院大学の現状について分析」をテーマに8月21日に、2回目は「描く—課題の描出・発見、対策の検討」をテーマに9月18日に開催されました。それぞれ多数の社会人にお集まりいただき、活発な意見が寄せられました。

参加者からは、生涯学習の場として大学解放を積極的に展開するべきであるという意見や、学都仙台を先導する大学であってほしいという意見、さらには中央の大学に匹敵する大学に成長してほしいという意見などが出されました。さまざまな意見・要望に、教職員一同、さらなる努力を誓う次第です。



今後、高校生を対象としたワークショップや、本学学生、さらには教職員でワークショップを展開する予定です。

各階層によるワークショップは年内までに完了し、それらの集約した意見を元に、ビジュアル面では、2000年4月を目標に新たなシンボルマークと大学名のロゴ、キャッチフーズなどを制定する予定です。これまでに愛されてきた本学の校章とは別にマークを作成いたしますが、適宜使い分けをしながらUIを主張したいと思っております。

また、これらの制定にあたっては、ワークショップの結果から、デザインを新たにするだけでなく、これからの大学のあり方考え、実践する際の参考とさせていただきます。他の大学でも類を見ない、これらの取り組みにご注目ください。

## COLUMN WELL

### オープンキャンパスの開催

8月5日に、泉、多賀城2つのキャンパスで、オープンキャンパスが開催され、受験生を中心に多くの参加者がありました。当日は好天に恵まれ、泉キャンパスには約1600名、多賀城には300名の参加者がありました。

このうち泉キャンパスでは、オリエンテーションリーダーを中心とする本学学生がキャンパス施設を案内したほか、入学や就職、学科、専攻内容などについての相談コーナーが設けられました。これらのコーナーで提供される最新の情報に、受験生やその父母は熱心に耳を傾けていました。



## 昼夜開講制の導入

来年4月から、英文学科と経済学科、そして商学科が昼夜開講制になります。昼夜開講制とは、昼から夜まで授業を行うということです。学生は(主として昼の時間帯で勉強する)昼間主コース、(主として夜の時間帯で勉強する)夜間主コース別に募集され、どちらかのコースに入学します。



夜間主コースという新しい形をとることで、従来の「二部」は発展的に解消し、入学者募集を停止します。

昼夜開講制においては、昼間主・夜間主どちらのコースを卒業しても、卒業学科は同じになります。これまでの一部・二部のような区別はありません。

つぎに、どちらのコースに在籍しても、別のコースで開講されている講義を受講し単位を取ることができるようになります。たとえば、経済学科の夜間主コースに入学した場合、必修の授業は夜間のものを履修しなければなりません。その他の授業については、すべて昼の授業を受けて単位を取ることが可能になります。逆に、昼間主コースの学生が夜間の授業を取って卒業単位

の一部に当てることも、もちろん認められます。

これによって、学生は、自分のライフスタイルに合った授業履修が可能になり、学生生活をより合理的に設計できるようになります。なお、夜間主コースの学生が、夜間の時間帯だけで卒業単位を修得できるということは、これまでの二部と同じです。



## 変わる東北学院大学



## 社会人入学への 門戸拡大

これまで本学の二部英文学科、二部経済学科には、昼に働き、夜は勉強したいという社会人のための「社会人特別入試」制度がありました。

この制度は、これからは、英文学科、経済学科、商学科の夜間主コースへの入学のための社会人特別入試として、これまでどおり年2回(11月と3月)行われます。

さらに、社会人の方が、昼の学部・学科(専攻)で勉強したい場合、これまでは一般入試を受けるしかなかったのですが、今年からは、アド

ミッションズ・オフィス(AO)による入試で、社会人の方の出願ができるようになりました。これに出願しますと、書類審査と面接、さらに小論文(工学部は小テスト)と面接によって合否を判定します。各学部・学科(専攻)とも、社会人の方の受け入れに積極的です。



社会人の方が、1年生ではなく、3年生に編入するという方法もあります。これができるのは、短大や高専を卒業された方、大学に2年以上在学し62単位以上を取得された方です(専修学校2年コースを卒業された方も、場合によっては資格があります)。

この編入学においても、今年から、社会人の方を対象にしたAO入試を新設しました。これに出願すれば、書類審査と面接で合否がほぼ決まります。

問い合わせ先 入試センター事務局  
TEL 022-264-6455



# 大学院より

Graduate School Info.

## 文学研究科

### 新しい世紀に活躍する 人材の育成を目指す文学研究科

これからのすぐれた大学は大学院が充実していないと高い評価は得られません。したがって少子化時代にもかかわらず知名度の高い大学ほど、大学院の充実に力をいれています。21世紀には日本の大学も「大学先進国」の欧米なみのグラジュエイト・コース(大学院)を完備しないと、研究・教育界はもとより政治・経済界・科学技術・文芸・マスメディア界などの国際競争に対応できる人材の育成はできないからです。また、すぐれた大学は、社会人入学制度を備え、現職の教員・幹部社員の再教育、一段上級の専修免許や資格取得などの講座を提供する実力を有する大学院の設置が不可欠となります。それらの時代の要請に応えるため、文芸研究科は、英語英文学専攻に加え、ヨーロッパ文化史専攻とアジア文化史専攻をスタートさせました。そのすぐれた教授陣は日本中から注目されています。高度な学びを望む者、研究を継続したい者にとっては恵まれた研究科です。

## 経済学研究科

### 進む国際交流

外国人客員教授として招へいされ、この4月から経済学研究科でタイ周辺諸国に居住する少数民族の経済社会文化についての講義を担当されました。タイ国チェラローンコーン大学のチャティップ博士が、夫人とともに7月に帰国いたしました。また、国際交流協定校相互間の交換教授として来学され、同じく4月から経済学研究科で外国書購読(テーマはアメリカの企業金融・金融制度など)を担当されました。アメリカアーサイナス大学のイコノピュラス博士も、ご家族のあとを追って7月に帰国いたしました。

経済学研究科では、今年3月、中国人留学生1名に経済学博士の学位を授与しましたが、現在オーストラリア人留学生1名も経済学博士の学位取得をめざして論文作成の最終段階に入っています。外国人留学生在籍者も次第に増えてきており、現在は5名となっています。

## 人間情報学研究科

### 教育研究環境の合理的充実のための大学院情報システム

人間情報学研究科の最新のトピックスは、本年4月に更新をした大学院情報システムです。文科系院生にも利用効率を高めるよう設立時のミニコン主体ではなくパソコンを活用するシステムになりました。おもに、以下のような点が改善されました。

特に社会人院生の多い本研究科では、このシステムが必須の要件でした。システムは生命系コア、社会系コア、行動系コアにより多様な使い方をされていますが、基本的には、レポート提出、ゼミ資料の事前配付とその指導、課題や宿題の連絡、図表を含む論文の送付と添削などの課題もほぼこのシステムで効果的に

## 法学研究科

### 法学研究科 Q&A

学部生 大学院に行きたいのですが。  
教 授 学部では、法学、政治学を幅広く勉強してきた訳ですが、大学院に入ると民法とか刑法とか、主に勉強すべき領域を決めなければなりません。これが学部と一番違う点ですね。

学部生 実際にどんな勉強をしているのでしょうか。  
教 授 前期課程(2年)では、32単位を修得し、修士論文を提出しなければなりません。そのために講義・演習に出る必要がありますが、そのテーマは学部とは違ってよりしぼられたもの、あるいは外国との比較などが多いようですね。

学部生 英語は苦手なんです。  
教 授 英語にかぎらず、外国語は重要ですね。これは日本の学問の成り立ちということもありますし、最近よくいわれる日本からの情報発信のためにも不可欠です。

学部生 修士論文というのは？  
教 授 同じ民法を専門に勉強するにも、留置権か成人後見か、書くテーマを決める必要があります。テーマさえ決まれば、2年目の夏休み頃からはじめて十分書き上げることができます。前期課程のあと、さらに高度な学術研究をめざす者には、後期課程(3年)の道も開かれています。当研究所では、意欲ある学生の入学をまっています。

## 工学研究科

### 女性技術者の活躍を考える

6月4日、工学部図書館視聴覚室において、「ミニ国際シンポジウム「Symposium on Mechanics of Granular Materials」」を開催し、クラートン大学、東北学院大学、東北大学、埼玉大学などから9件の研究発表がありました。このテーマは客員教授のヘーリー・シェン先生の専門分野であり、会議は英語で進められ、約30名の参加者が熱心に質疑応答をくりひろげていました。

シェン先生は米国でも数少ない女性科学者のひとりです。工学研究科大学院の女子学生たちの発案で、6月1日、シェン先生に「My experience as a woman engineer」という題で一般講演をしていただき、その後女子学生を中心に「日本における女性技術者」というテーマで懇談会を開催しました。学部的女子学生も参加して、米国社会における女性科学者や女性技術者の活躍の様子、女性の就職状況の日米比較、セクシャルハラスメントなどいろいろな問題を話しあいました。米国にならって、女性技術者の組織化や情報交換システムなど、相互協力のための体制をつくることの必要性などが示唆されました。

# 学部より-1

Faculty Info.

## 文学部

### 文学部の魅力

#### —世界に通用する「大学人」を育成する学部—

##### 大学は出たけれど

社会に出て一般の企業に就職するのがほとんどの大学の各学部所属の学生の希望です。国や地方自治体勤務や教員となることを希望する者も増えています。産業・経済界が不景気であればなおさらそうでしょう。学生は、日本の政治・経済の動向を敏感に反応し、学部選択をします。それは当然です。一生の生活設計に関わることでありますから。大学は出たけれど職がないのでは困ります。

##### 文学部卒の将来はあるか

あります。しかも十分すぎるほどあります。その根拠は何でしょうか。応えはきわめて明瞭です。文学部では柔軟な思考や価値観の多様性の相互承認やグローバルな視点から総合的に物事を考察する知性を磨くことを目的としており、社会に出てすぐ役立つ知識や技術だけを教えることをしないからです。しかし、社会は「すぐ役立つ」技術や知識だけを求めているのではないかと反問したくなるでしょう。そういう一面があることは否定できませんが、社会はすぐ役立つ知識や技術は、同時に時代の目ざ

ましい技術革新や進展に、「すぐ役立たなくなる」ことをも知っています。だから「使い捨て」になる人材は中長期の企業充実の戦略には用をなさず、かえって足手まといとなるからです。とりわけ良質の大学の卒業生には企業や役所や学校で指導的役割を果たすことが期待されているのが実情です。学部卒には柔軟な思考と総合判断を有することが求められています。辞書的知識や職人的技術はコンピューターが提供する時代です。それを総合的に企業や役所や教育・研究の現場で生かす能力と学識が求められているのです。

##### 「大学人」の育成

東北学院大学は創立の精神がそもそも国際的でありました。封建思想が横溢し、民族主義的・国家主義的主張が声高に叫ばれている中で、古人の豊かな賜物を相互に尊重し、他者のために生かし働かすことの大事さを建学の精神としました。「大学人」とはそのような精神を持った人をいいます。真の「大学人」の活躍が21世紀には求められているのです。

## 経済学部

### 転換期の社会に対応した学部教育をめざして

今日、わたしたちをとりまいている世界の、また日本の経済的・社会的情勢は大きく変わりつつあります。社会主義経済圏諸国の市場経済化、企業活動の国際化の進展、情報伝達技術の急速な発展による企業活動・社会生活・産業経済の激変、資源の浪費と環境破壊の進行、高齢化社会の到来と財政問題など、これまで体験したことのなかったような多面的な情勢変化が、国内外を問わず、わたしたちの生活に影響をあたえています。

わたしたちは、これらのあたらしい情勢変化にどう対応し、諸問題をどう解決していったらよいのでしょうか。かつての偉大な経済学者たちは、激動する社会の諸問題を解明しようとしてあたらしい考え方、あたらしい理論を生みだしたのでした。周知の『国富論』のA. スミス、『雇用・利子および貨幣に関する一般理論』のJ.M. ケインズはその好例です。

経済学部では、上記の諸問題の解明をまです学生

諸君の要望にできるだけ応えられるよう、平成12年度から開始されるカリキュラムに、これまでの基礎的な主要科目のほかに、情報科学・自然環境・社会福祉・国際化に関連する諸科目をより充実したり、あらたに設けるとともに、社会人の生涯教育へのニーズの増大、授業時間帯に対する学生のニーズの多様化などに対応するための「昼夜開講制」の導入をおこないます。

地域の住民・企業人などとの交流による「開かれた大学」をめざした公開講義、公開講座、公開シンポジウムも、過去20年にわたるものも含めて、毎年好評を得てきましたが、今後もさらにあたらしいテーマを設定して、さらに充実した魅力あるものにしていきます。





## 社会の要請に応える法学部

法学部は、1999年4月より、司法試験に関する受験指導で大きな実績をもつ「辰巳法律事務所」と提携し、同研究所に開講を委託する形で、「司法試験公開講座」をはじめました。これまで、弁護士や裁判官を志す東北学院大学の在学学生・卒業生は、各自の努力によって司法試験の準備をするほかありませんでした。この特別の課外講座は、東北大学学生の司法試験受験を支援するとともに、これからの日本社会における法律家の重要性を考慮し、法学部にたいする社会的期待にこたえるために開設されたものです。

司法試験公開講座は、「公開」と銘打っているところからもわかりますように、他大学の学生等にも開かれたものですが、本学が教室・VTR機材等の設備を提供することにより、一般に行われている同研究所の授業内容を、本学の在学学生・卒業生にかぎって、格安の料金で受講できるのが大きな特徴です。

今年度は憲法・民法・刑法の入門講座のみの開講ですが、法学部新生の6分の1ほどが受講登録し、そのうち、3ヶ月経過後も出席している者の割合は、同研究所と提携している他大学の例よりもかなり高い数字だとのこと。ほかの大学も従来以上に司法試験対策に力をいれはじめ、競争が激しくなっていますので、安易な予測は禁物ですが、受講生の熱心な取りくみには、多数の司法試験合格者ができることを期待させるものがあります。

## 多様な活動を展開する工学部

工学部では昨年に引き続き、韓国デプル大学校工学部と共同研究を進めています。今年はコウ・ウェン教授が2名の学生を連れて約1ヶ月間「先細ノズルを用いた空気の衝突噴流による熱伝達に関する研究」というテーマで、本学機械工学科佐藤恭三教授の研究グループと共同研究を行い、秋の機械学会で研究発表します。コウ先生たちはキャンパス隣の旭ヶ岡寄宿舎に宿泊し、朝早くから夜遅くまで時間を惜しんで熱心に研究に打ちこんでいました。この研究態度や礼儀ただししい韓国の学生の姿に、研究室の院生や卒研生たちは大変よい刺激を受け、国際交流でなければ得られない経験をすることができました。

工学部においても、8月5日にオープンキャンパスを開催しました。多賀城キャンパスには約300名の高校生、先生や父母たちに足を運んでいただきました。一般の研究室・施設の公開にくわえて、工学部では体験入学をプログラムに取りいれました。あらかじめ体験入学の申し込みをしていた150名の生徒たちは、開会祈祷ではじまったオリエンテーションにつづいて、各学科が周到に準備したプログラムにそって授業や実験などを体験しました。来春は今回のオープンキャンパス経験者の中から21世紀の人類の福祉と平和に貢献する科学技術者をめざして、多数の学生が工学部に入学してくれることを期待しています。



## COLUMN WELL

### 中国・南開大学 高玉葆副学長が来学

7月2日、南開大学高副学長が来学されました。これは、倉松大学長の要請に応えたものです。

本学と南開大学は、1998年11月20日に「国際学術交流ならびに教育協力協定」を締結しました。その際、倉松大学長らが天津市の南開大学を訪問し、協定書の調印式に臨みました。高副学長は、大学設置50周年記念事業のひとつで、2000年10月7日に開催予定の国際シンポジウムの基調講演を引き受けてくださっています。地球の環境問題は21世紀における最も大きなテーマであり、環境問題専攻の高副学長による「地球と環境 アジアの視点から」と題する講演は、時宜を得たものです。

### 日本基督教学会

10月7日・8日に、本学泉キャンパスを会場として、日本基督教学会第47回学術大会が開催されました。

「キリスト教史にいける神学論争」という主題のもと、各研究発表やシンポジウムが行われました。





# 学部より-2

Faculty Info.



## 教養学部

### さらに進化する教養学部

21世紀初頭に向けて、教養学部では2つの大きな出来事がありました。第1は、教養学部のカリキュラムの根本的な見直しです。第2は、泉キャンパスで高校生やそのご両親に大学を知っていただくために「オープンキャンパス」が開催されたことです。この2つの出来事は、コンゴしばらくの間教養学部がどのような学生を育成し、社会に送り出そうとするのかという方向性と密接に関連をしています。人間科学、言語科学、情報科学のキーワードは、そのままこれからの変貌する社会で希望をもって生涯学習を継続して行くための糧となりましょう。

教養学部の3専攻のカリキュラムは、これまででも評価は良好でしたが、さらに全学的なカリキュラムの改変にともない教養教育、専門教育全般について再検討が進められたことは、今後の学部教育展開の萌芽を築くことができた、と考えてよいでしょう。一方教養学部は、全学の教養教育を担う重要な役割をはたしており、学生諸君が泉区キャンパスで青年後期の生活をいかに踏み出し、いかに過ごすことができるかはその後の生涯学習に大きな意味をもつことになるでしょう。

オープンキャンパスに対して専攻により特色のある多様な企画が行われました。来訪する高校生諸君の個別的な相談に応じるために、専攻ごとに相談コーナーが設けられ遅くまで相談が行われました。

人間科学では、社会学、心理、教育、体育などの学習、研究施設を見学するために訪れる高校生に専門領域の資料や資格関連やその他のきめこまかな資料の配付、説明などを行いました。

言語科学では、意欲的な公開ミニ講座を開講し、教員の講義が行われました。これは、高校生の大変な関心呼びました。また言語文化などに関する著作、資料を展示して演習室が高校生の熱気であふれるばかりの盛況になりました。

情報科学では、相談におとずれた高校生をコンピューター実習室に誘い、在学生と顔をあわせる機会や学習用のプログラムのデモンストレーションを用意しました。また、自然系の各実験室を見学者に開放しました。

訪れる高校生の素朴な質問などに表現されるさまざまな事柄は、未知の大学への要望や期待を示すものでもありましょう。それを理解することは、基本的に入学してくる新入生の理解につながることをあらためて強く感じました。



COLUMN  
WELL

### 開かれた扉—T.G.U.

第18回 キリスト教文化講座  
日時：平成11(1999)年10月15日・19日・22日・26日・29日  
午後6時～午後8時  
会場：本学土樋キャンパス67年館(5階)第3会議室  
受講対象：どなたでも歓迎いたします  
受講料：1,000円(テキスト代として)

#### 内容及び講師

10月15日  
挨拶：大学長 倉松 功  
講演：聖書の奇跡と地中海世界  
福音書記者たちのイエス理解  
文学部教授 土戸 清

10月19日  
講演：回想と黙想  
アーミッシュ村の「簡素・純朴」の源流を探る  
文学部教授 西山 良雄

10月22日  
講演：「教会」と諸国家  
ヨーロッパの理解をめぐる  
文学部教授 伊藤伊久男

10月26日  
講演：バルメン宣言の教会論  
第三項、第五項のテキストを読む  
文学部教授 佐藤 司郎

10月29日  
講演：生命倫理の諸問題  
キリスト教の視点から  
文学部教授 西谷 幸介

第41回 キリスト教文化研究所  
学術講演会  
日時：平成11(1999)年11月19日  
午後3時～午後5時  
会場：本学土樋キャンパス67年館(5階)第3会議室  
講演：「宗教改革時代の諸論争  
ルターを中心にして」  
講師：大学長 倉松 功

問い合わせ先 キリスト教文化研究所  
TEL 022-264-6401

## 学生たちは、今。



就職活動体験

牧 将平

法学部法律学科4年  
山形県鶴岡西高等学校卒業

就職の体験を明るく話してくれた牧将平さんは法学部の4年生です。厳しい就職環境をものともせずに見事に第一希望の企業からの内定を得ました。

就職活動へのスタートは、サークル活動の役員を負えた年生の後半からで、けっして早い取り組みではありません。それでも自分が生まれ育った“地元で貢献したい”という気持ちが強く、地元の銀行を選びました。

就職活動は、会社訪問や企業セミナーなどスーツ姿になることが楽しみで、社会人への第一歩として気持ちを引き締めて就職活動に臨みました。

また、就職環境が厳しい状態にあることは、全く実感せず、人事担当者との面接でも大学で打ち込んできたことを的確に主張することができました。

これまでの学生時代を振り返って、牧さんが後輩にアドバイスをしたいことは、「大学に入って、自分はこれだけはやってきたというものを持って、それを誇りにしてほしい。何があってもあきらめないでやり通してもらいたい」ということでした。

牧さんにとって、それは学生時代に最も情熱をかけて打ち込んできた書道研究部でのサークル活動で、時にはつらい思いをしたこともありましたが、学部学科や学年を越えたサークルの仲間との楽しく充実した時間を過ごすことができたそうです。書道研究部での学生同士はもちろんのこと、指導してくださる先生やOBなどとの交流を通して、書道の鍛錬だけではなく、生活指導にも及び、礼儀作法を重んじる書の心が人間を成長させてくれたのです。

ゼミでは自治問題をテーマに研究をしましたが、人と議論をすることもずいぶんトレーニングされ、苦手だった人前で話すことも逆に自信を持つようになったそうです。「学生時代にサークルやゼミで学んだことを社会に出ても無駄にはしたくない」という牧さんですが、この意識の違いが、結果として第一希望の就職先の内定につながったのではないのでしょうか。社会人となっても地域を担う役割を果たす人材として、就職する銀行でも期待される活躍をしてくれることでしょう。



留学体験

橋本 美奈子

教養学部教養学科4年  
岩手県盛岡第二高等学校卒業

橋本美奈子さんは、本学との協定校であるドイツのヴィースバーデン大学で1年間の海外留学を経験しました。

ドイツへの留学にあたっては、英語の他にもう一つの言語を学びたかったことと、地元盛岡にあるドイツレストランの雰囲気にあこがれたからだそうです。事前にドイツでの1ヶ月の語学研修を受けるなど計画を立てて、万全の準備で臨んだそうです。

しかし、いざ留学してみると先方の手違いで学生寮の手続きができていなかったことや荷物が行方不明になるなど、トラブルに巻き込まれ、ホームステイをすることになって、逆にドイツの家庭に入っただけの生活に触れる機会となり、家族同然の深い交流を結ぶなどのたくましい面も養われました。

ドイツでの学生生活では、経済学部で籍を置き、ディスカッションの多い授業で苦勞しながらも、一生懸命に学ぶドイツの学友に影響を受けながら、小さい頃からの夢を実現されたのです。

また、学生生活を離れても、オペラやミュージカルに足を運び、日本よりも文化や芸術に触れる機会が多く、充実したドイツでの生活を送ることができたそうです。

両親の理解があって数々の貴重な経験をされた橋本さんですが、これから留学を希望する後輩へのアドバイスを尋ねると、「怖じ気づかず、自ら進んで、勇気を忘れずに、言葉が通じなくともこころから通じ合おうという気持ちがあれば、相手に伝わるはずですよ」と答えてくれました。

帰国後もドイツの友人とお互いに連絡を取り合うことも大切にしているそうで、実りの多かったすばらしい経験を、今も継続して実践しています。

最後に、もっと東北学院大学からも留学しやすくなるような制度の見直しについて要望が出されました。留学して周りの方々からも、自分の意見をハッキリ主張するようになったと言われていたそうですが、留学で身についたグローバルな視野と行動力で、これからも希望することを次々と実現してほしいものです。

# 国際交流センターより

International Info.



## フランクリン・アンド・マーシャル大学 (アメリカ合衆国)との交流

本学とフランクリン・アンド・マーシャル大学とは、1986年に「国際教育協力協定」を、さらに1993年に「学生交換に関する協定」を締結しました。フランクリン・アンド・マーシャル大学との交流は深く、本学の創立者をはじめ本学に多大な貢献をした宣教師の多くがこの大学の出身者です。

## フランクリン・アンド・マーシャル大学 リチャード・ニードラー学長からのメッセージ

It is with great pleasure that I send greetings, on behalf of the Trustees, Faculty, Staff, Alumni and Students of Franklin & Marshall College, to Tohoku Gakuin University on the occasion of the 50th Anniversary of Tohoku Gakuin's recognition as a full university.

The bonds between Franklin & Marshall and Tohoku Gakuin were forged over 100 years ago by two Franklin & Marshall alumni—Edwin Hoy, F&M Class of 1882 and cofounder of Sendai Theological Training School in 1886, and David B. Schneider, F&M Class of 1880, who served for 34 years as second president of Tohoku Gakuin. In 1987, when Franklin & Marshall College was celebrating its 200th anniversary, the College awarded honorary degrees to Tohoku Gakuin President Tetsun Seino and Board Chairman Shozo Kodama as a symbol of the importance of the continuing ties between Tohoku Gakuin and Franklin & Marshall. Similarly, Franklin & Marshall greatly honored when I received an Honorary Degree from Tohoku Gakuin in 1993.

This important historical link was reinforced in recent years by the institutional agreement on student exchange that was created, first as a summer consortial program in 1983, and then expanded to semester-long opportunities in 1991. Over the past 16 years, many Franklin & Marshall

students have benefited greatly from their studies at Tohoku Gakuin, and we trust that the same can be said for Tohoku Gakuin students who have attended Franklin & Marshall.

Franklin & Marshall is proud to be part of both the history of Tohoku Gakuin and of its continuing progress as a university.

学設置50周年記念に際し、フランクリン・アンド・マーシャル大学の理事会、教職員、同窓会ならびに学生を代表し、東北学院大学にお慶びの言葉を申し上げます。

フランクリン・アンド・マーシャルと東北学院との絆は、100年以上前に、二人のフランクリン・アンド・マーシャルの同窓生によって結ばれました。すなわち、F&M1882年度卒業生で、1886年の仙台神学校創立者の一人であるW・E・ホーイとF&M1880年度卒業生で、東北学院の第2代院長を34年間も勤めたD・B・シュネーダーです。1987年、フランクリン・アンド・マーシャル大学が、創立200周年記念式典に際し、(当時の)東北学院の情野鉄雄学長と児玉理事長に名誉博士号を授与したことは、東北学院とフランクリン・アンド・マーシャルとの間の長い結び付きの重要性を象徴するものであります。同様に、1993年に私が東北学院大学から名誉博士号を授与されたことは、フランクリン・アンド・マーシャル大学の大切な名誉と存じております。

この重要な歴史的連携は、近年、学生交換に関する両大学の協定締結により一層強化され、まず1993年に始まった日本研究夏期講座として、次いで1991年からは1学期間にわたる秋期講座として具体化されてまいりました。過去16年間、フランクリン・アンド・マーシャル大学の多くの学生が東北学院大学での学習を通じて大きな恩恵を受けてまいりましたが、フランクリン・アンド・マーシャル大学に留学した東北学院大学の学生に関しましても、同様のことが言えると信じております。

フランクリン・アンド・マーシャル大学は、東北学院の歴史の一部と総合大学としての絶えざるご発展の一部を担い得ておりますことを誇りとするものであります。

## COLUMN WELL



## 韓国・清州大学校生4名が 自転車日本縦断に挑戦

清州大学校の連合学生会役員4名が、日本の学生の意識調査および親睦を目的に、青森から九州までの自転車旅行をし、その途中、4月上旬に本学に立ち寄り、本学生会役員2名と懇談しました。

### 国際交流協定校

Ursinus College アーサイナス大(アメリカ)  
Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大(アメリカ)  
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大(ドイツ)  
Pyongtaek University 平澤大(韓国)  
Nankai University 南開大(中国)

問い合わせ先 国際交流センター事務局  
TEL 022-264-6425/6404  
E-mail: "IC0@tsc.tohoku-gakuin.ac.jp"



## 図書館より

Library Info.



### セカンド・フォリオ版『シェイクスピア全集』（1632）

シェイクスピアの戯曲と認められる37編のうち、17編は作者存命中クォート版（四折版）で1作ずつ出版されました。全集が初めて刊行されたのはシェイクスピア没後7年経過した1623年であり、劇団仲間のヘミングとコンデルの努力により、フォリオ版（二折版）で世に出されました。これをファースト・フォリオ（第1二折版、F1）といいます。

これに次いで1632年に出版された全集が、本学所蔵のセカンド・フォリオ（第2二折版、F2）であり、聖パウロ大聖堂の境内にあった黒熊の看板を掲げたロバート・アロット経営の書店から売り出されました。内容は本文の細かい異同を第2二折版と同じであり、シェイクスピアの全戯曲のうち「ペリクリーズ」を除いて喜劇14編、歴史劇10編、悲劇12編、合計36編を収録しています。この版について特筆すべきことは、シェイクスピアに次ぐ英国第二の詩人、ジョン・ミルトンの最初に活字になった作品、「我がが称うる劇詩人、W.シェイクスピアに捧ぐ碑銘体詩」が載っていることです。

当時は印刷しながら校正を同時進行させていたため、同一版でも、異同があります。厳密に言えば、この第2二折版につき3種類の版があり、さらにその第1二折版だけでも7つの異刷りがあります。本学所蔵のフォリオは、その第1版、第1刷です。大きさは326×227ミリ。表紙は、17、8世紀頃にヴェラム革（子牛革）によって特に装丁し直されたもののようです。その全面にはペンによる花模様が描かれ、背文字もペン書きです。454葉からなる本文は、後世の洗浄、プレス等の修復作業を受けておらず、第2二折版の中でもきわめて良好な版本であることは間違いありません。本書は、赤いモロッコ革張りのケースに収められており、ケースには「英国製、リヴィエル・エンド・サン製作」の銘が打たれていますが、その製作年代は不明です。

問い合わせ先 図書館事務室  
TEL 022-264-6491

## COLUMN WELL

### 聖書に聴く

本学の建学の精神をあわらすキリスト教を学ぶ、第45回東北学院大学教職員修養会を、約110名の教職員の参加のもと、9月9日・10日に開催しました。



## 研究所より

Institute for Research Info.

### 英語英文学研究所

本研究室は、英語英文学の研究およびこれに付随する事業を行うことを目的として、1957年に設置されました。主な研究・活動は、英語英文学と英学史研究資料の蒐集、定期刊行物『英語英文学研究所紀要』と『東北学院英学史年報』の発行、「学術講演会」と「定例公開講演会」の開催があります。

『英語英文学研究所紀要』は今年で28号に、『東北学院英学史年報』は、今年で20号になります。また、「変形文法入門講座」や「英米詩講座」、英米文学部門と英語学部門に分かれての「公開イングリッシュ・セミナー」を企画・実施しています。現在では、以下の「学術講演会」と「定例公開講演会」を市民に開放しています。

学術講演会：27年間にわたり実施しており、今年度は第1回を6月25日に齋藤和明国際基督教大学副学長を迎えて「神と悪魔 『パラダイス・ロスト』巻十について」というタイトルで開催しました。第2回はアメリカ文学について11月に予定しています。

定例公開講演会：32年にわたり実施しており、本研究所所員が講師を務め、今年度の第1回は6月26日に福地明子教養学部教授が「ワーズワスの“楽園の回復”について」というタイトルで開催しました。秋に第2回と第3回を予定しています。

問い合わせ先 英語英文学研究所  
TEL 022-264-6401

### 東北文化研究所

本研究室は、東北地方の文化・歴史を調査・研究するために1968年4月に開設されました。研究の主たるテーマは、東北古代文化の考古学的研究、東北文化の民俗学・文化人類学的研究、東北地方開発の歴史学的・地理学的研究、東北地方のキリスト教文化に関する研究、東北地方の風土に関する地理学的研究の5つです。また、関係史・資料の収集に大きな力を注ぐとともに、1969年以来、毎年『東北文化研究所紀要』を発行しています。

さらに、1987年度からは、「公開研究会」と「公開学術講演会」を毎年開催しています。1993年10月には、史学科と共催で文学部史学科創設30周年・東北文化研究所創設25周年記念シンポジウム「歴史のなかの東北 日本の東北・アジアの東北・世界の東北」を開催し、1998年4月には、その成果をもとに東北学院大学史学科編『歴史のなかの東北 日本の東北・アジアの東北』（河出書房新社）を刊行しました。

問い合わせ先 東北文化研究所  
TEL 022-264-6430

# 就職部より

Placement Info.



「1065人」(前年999人) この数字は1998年(平成10年)宮城県内での、本学出身者の社長の実数です。1999年3月25日付帝国データバンク(帝国ニュース・東北版)によると、宮城県内の大学卒・短大卒の社長が3942人で、また、出身大学別のデータでは、東北学院大学が1位で1065人、2位東北大学327人、3位日本大学256人、4位早稲田大学183人、5位慶應義塾大学164人などと続きます。本学出身者は全体の27%を占め、本県における財界でのOBの活躍の様子が報じられました。今年の就職戦線は“不景気”“リストラ”“厳選採用”のキーワードのとおり、大変厳しい状況が続きます。4年生の就職活動は、いよいよ第二ステージへと突入しました。

すでに、進路を決定した学生、公務員や教員採用試験に挑戦している学生、さらには、自分の納得できる進路を求めて、活発な就職活動を展開中の学生、まさに就職活動は人生の節目そのものです。10月からは、3年生が本格的な就職活動に入ります。また、新たなドラマがはじまります。

問い合わせ先 就職部就職課  
TEL022-264-6484

# 入試センターより

Admissions Info.

今年から導入された新しい入学者選抜の方法「アドミッションズ・オフィス(AO)による入学試験」は、8月26日から第期の願書受付をしていましたが、10月16日に終了しました。

第期の定員は全学で06名なのに対し、10月2日現在、志願者数は454名となっています。このうち、出願の時期が早かった336名の志願者には、すでに第一次選抜(書類審査と面接)の結果が通知されており、残りの志願者についても、近日中には結果が出されることになっています。

第一次選抜で一定以上の評価を受けた志願者は、11月18日に行われる第二次で小論文(工学部は小テスト)と面接を受け、最終的な合否判定がでます。

第期と第期(英文・経済・商学科の夜間主コースのみ)の願書受付は、それぞれ11月22日～12月4日、来年1月24日～2月25日となっています。

問い合わせ先 入試センター事務室  
TEL022-264-6455

## COLUMN WELL



### 祈りの中で...

10月12日・13日に、日本キリスト教海外医療協力会の塚本智氏(カンボジア代表)よ柴田恵子氏(バングラディッシュ派遣ワーカー)説教による、秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝が開催されました。



学校法人 東北学院

### 東北学院大学

#### 土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、  
法学研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各3・  
4年)文学部二部、経済学部二部  
〒980-8511  
宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL022-264-6411(代) FAX022-264-3030

#### 多賀城キャンパス

大学院：工学研究科  
学 部：工学部  
〒985-8537  
宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL022-368-1115(代) FAX022-368-7070

#### 泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各1  
・2年)教養学部  
〒981-3193  
宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL022-375-1111(代) FAX022-375-4040

### 東北学院中学・高等学校

〒980-0811  
宮城県仙台市青葉区一番町一丁目9番1号  
TEL022-227-1221(代) FAX022-227-6302

### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105  
宮城県仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL022-372-6611(代) FAX022-375-6966

### 東北学院幼稚園

〒985-0862  
宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL022-368-8600(代) FAX022-309-2655

# ΟΡΠΑΝΟΣ

—ウーラノス—  
東北学院大学 広報誌 VOL.2

発行日 1999(平成11)年10月20日

編集 東北学院大学  
設置50周年記念事業  
大学広報誌発行小委員会

発行 東北学院大学  
設置50周年記念事業  
実施委員会

〒980-8511  
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL022-264-6424 FAX022-264-3030  
<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

印刷 (株)エイエピー